

病理診断科・臨床検査科

病理診断科：2年時選択研修

指導医：病理診断科部長，臨床検査科長

上級医：経験が8年以上あるが指導医養成講習会未受講の病理医、および経験7年以下の病理医

指導者：臨床検査室（技師長・副技師長・主任・臨床検査技師）

●一般目標（GIO）

先進的で高度な医療技術と知識を兼ねそろえた専門医と、地域に根ざした全人的な医療を推進する総合診療医を育成するために、医療の基盤・基礎となる病理診断学、臨床検査学で求められる知識や技術を習得し、その意義と重要性を理解する。

●行動目標（SB0s）

1) 求められる態度

- a) チーム医療を担う医療人として、検査室や他部署のスタッフと協調しながら、円滑に業務を遂行することが出来る。
- b) 病理解剖の意義と重要性を理解し、ご遺体だけでなく、ご遺族に対する配慮が出来る。
- c) 勉強会や研修会に参加する。

2) 必要な知識

- a) 病理検査や臨床検査に必要な検体の種類や保管・提出方法を理解し、適切に取扱うことが出来る。
- b) 病理診断業務、臨床検査業務に関する法律や制度を説明することが出来る。
- c) 検査室内で発生しうる医療事故を未然に防ぐために、医療事故防止対策を理解し、リスクを軽減することが出来る。
- d) 種々の臨床検査の意義と検体処理工程を理解することが出来る。
- e) 得られた検査結果を正確に解釈し、病態生理を説明することが出来る。
- f) 検体の肉眼所見を詳細に述べる事が出来る。
- g) 病理診断学で使用される基礎的な用語を理解し、説明することが出来る。
- h) 病理組織標本、細胞診標本から得られた所見を正確に評価・把握し、指導医と共に診断することが出来る。
- i) 診断の補助となる特殊染色・免疫染色、分子生物学的手法の原理と作業過程を理解し、その結果を評価することが出来る。
- j) 病理解剖症例の臨床経過と問題点を的確に説明し、得られた病理所見とその意味を述べ、病態生理を導き出すことが出来る。

k) 術中迅速診断に関する知識を習得することが出来る。

3) 必要な技能

a) 病理検体の切り出し業務において、作業環境やコスト、安全対策に配慮しながら必要な技能を習得することが出来る。

b) 病理診断システムや電子カルテシステム、顕微鏡画像撮影システムを使うことが出来る。

c) 病理診断に必要な臨床情報や EBM に基づく情報を収集することが出来る。

d) 病理解剖に立ち会い、介助をすることが出来る。

●方略

<臨床検査室>

- ・ 臨床検査室を見学する。
- ・ 臨床検査業務に関する法律や制度、安全対策に関するマニュアルを読む。
- ・ 臨床検査技師から臨床検査で用いられる機器の説明を受ける。
- ・ 指導医や臨床検査技師の指導のもとで検体処理の手法や、検体の作製過程を学ぶ。
- ・ 指導医や臨床検査技師と共に、得られた検査結果を評価し、その意義について議論する。
- ・ 臨床検査学に関する書籍を用いて、自己研鑽に励む。
- ・ 臨床検査に関する勉強会を定期的で開催する。

<病理検査室>

- ・ 病理検査室を見学する。
- ・ 病理検査業務に関する法律や制度、安全対策に関するマニュアルを読む。
- ・ 臨床検査技師から病理検査で用いられる機器の説明を受ける。
- ・ 指導医や臨床検査技師の指導のもとで、検体処理の手法や、検体の作製過程を学ぶ。
- ・ 教育用のパラフィンブロックを用いて、HE 染色や特殊染色、免疫染色といった組織標本を作製する。
- ・ 指導医のもとで、切り出し業務を補助する。
- ・ 指導医のもとで、術中迅速診断業務を補助する。
- ・ 指導医のもとで、病理組織診断や細胞診断を行う。
- ・ 顕微鏡画像撮影システムを用いて、組織画像を撮影する。
- ・ 病理解剖に立ち会い、病理解剖業務の補助をする。
- ・ 臨床病理検討会(CPC)で、症例を提示する。
- ・ 指導医や臨床検査技師から、病理診断学に関するレクチャーを受ける。
- ・ 教育用標本を用いて、病理診断学を系統的に学ぶ。
- ・ 病理診断システムを用いて、過去の症例を検索し、病理診断学を系統的に学ぶ。
- ・ 病理診断学、細胞診断学に関する書籍を用いて、自己研鑽に励む。
- ・ 病理組織診断、細胞診断に関する勉強会を定期的で開催する。
- ・ 指導医や文献検索の手法を学ぶ。

<コンサルテーション>

- ・ 難解症例や稀少例を経験した場合は、指導医と共に、対応を協議する。日本病理学会の

コンサルテーションシステム等を用いて、他施設に標本を郵送し、各領域のスペシャリストから適切な診断を受けることが出来る。

<CPC>

- ・ 月 1 回開催される CPC に参加し、CPC レポートを作成する。
- ・ 院外 CPC(医王病院)に参加する。

<勉強会>

- ・ 院内で月 3 回開催される勉強会 (ISARK 検討会や Face Link in KMC)に参加する。

<研究会、学会、学術活動>

- ・ 研究会、学会に指導医と共に参加し、必要に応じて発表する。

<週間スケジュール>

	月	火	水	木	金
8:30	切り出し	切り出し	切り出し	切り出し	切り出し
～					
12:00					
13:00	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断
～	(臨床検査)	(臨床検査)	(臨床検査)	(臨床検査)	(臨床検査)
17:00					

●評価

- ・ 病院として定めた評価方法にて評価を行う。
- ・ 評価者は、指導医、指導者（臨床検査室の技師長）が行う。
- ・ 研修医からの評価も必ず施行する。

●参考資料 「厚生労働省 臨床研修の到達目標」

<基本的な臨床検査>

- 1) 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）
- 2) 便検査（潜血、虫卵）
- 3) 血算・白血球分画
- 4) 輸血・血液型判定・交差適合試験
- 5) 心電図（12誘導）、負荷心電図、心エコー
- 6) 動脈血ガス分析
- 7) 血液生化学的検査
 - ・ 簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
- 8) 血液免疫血清学的検査（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む）

9) 細菌学的検査・薬剤感受性検査

- ・検体の採取（痰、尿、血液など）
- ・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）

10) 呼吸機能検査

- ・スパイロメトリー

11) 髄液検査

12) 細胞診・病理組織検査

13) 神経生理学的検査（脳波・筋電図など）

<医療記録>

CPC レポートを作成し、症例呈示出来る。